



卒業生によるボランティア活動グループわ会報

情報ぎやらり

第49号

発行日 2010年1月29日
編集 グループ“わ”広報部
発行者 加藤 勇治
発行元 NPO法人社会還元センター
グループ“わ”
TEL (078) 743-8101 FAX (078) 743-3830
Eメール wa_gallery@wa-net.jp
ホームページ http://www.wa-net.jp

平成22年1月1日

2010年の年頭に想う

理事長 (美工-10期) 加藤勇治

新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃はグループわの活動と運営にご理解とご協力をいただき役員を代表して深く感謝申し上げます。

経験豊かなシルバー人材を擁する“わ”の活動は今や各方面から注目され、熱い期待が寄せられる存在となりました。新年に当たり事業の更なる安定成長を期すため、この際会員全員で考えるべき3つの課題について所見を述べさせていただきます。

その1は、「活動を末長く実践するための“組織の絆”」の問題です。

昨年暮、賀川豊彦献身100年記念事業記念式典がポートピアホテルで開催され、グループわが第1回賀川賞を受賞する栄に浴しました。これは中央区会が特別養護老人ホーム真愛ホームに1998年4月から11年間絶えることなくボランティア訪問し、入所者のために尽くされたことが評価された結果です。非常に喜ばしいニュースでした。

長期に亘り誠実に社会奉仕することはなかなか大変なことです。最近グループわでは会員の高齢化が急速に進んで参りました。ある組織のリーダーが突然自宅で倒れ、緊急入院したために組織の活動が急に停滞してしまったケースや、高齢で体力が続かず脱会に歯止めがかからず、遂にボランティアグループを解散せざるを得なかったケースが目立って来ました。お互いが高齢者だけに、健康管理が特に重要なことは当然のことですが、活動が特定の人に過重な負担にならないよう皆でカバーし合うチームワーク、組織の絆が特に重要です。

その2は、「組織を活性化するための“新しい仲間づくり”」の問題です。

グループわは経験豊かで多彩な人材を擁していますが、平均年齢70歳前後という“高齢者集団”であることが“わ”の特徴です。会員のうち高齢

者が順次活動の第一線から離れていきますが、常時若い活力に満ちた新しい人材(新規会員)の補充が伴わなければ組織の衰退は必至です。会員数が1,000名を超えた3年前から会員数の伸びは停滞しており、新規入会者の数は高齢で退会する人数分だけを辛うじて埋め合わせるレベルでこの3年間推移して来ました。ボランティアを志す新会員を組織を挙げて、常時積極的に確保していかない限り、組織の活性化、飛躍は望むべくもありません。新しい活動仲間を単にKSC卒業生のみならず広く一般の方にも対象を広げること、新規会員の勧誘をKSCの卒業シーズンのみ限定せず、常時意識して取り組むことが肝要です。

その3は、「世間の信頼を繋ぎとめるための“活動の質”」の問題です。

団体のレベルは擁する人材次第と言われます。幸いグループわは、経験豊富な多士済々の人材を抱え、総じてボランティア先からその活動ぶりが一応の評価を受けています。

しかしながら、現状に甘んずることなく常に一人一人が向上心を持って精進を重ねなければ世間の信頼を繋ぎとめることは出来ません。「前回よりは今回、今回よりは次回へ」と活動の質を高め、ボランティア先の高い顧客満足度を確保する努力こそが何にも増して大切です。

一人でも多くの方がボランティア活動に加わり、ともに汗を流しボランティア先に喜んでいただける、そんな「環境づくり」「基盤づくり」に本年度も引き続き邁進したいと考えています。

次に今年度の主な事業の取り組み経過と今後の予定について下記に述べます。

区会活性化対策の取り組み

4月以降毎月、本部役員、各区会長総動員体制で集中審議を重ねております。上半期までは対策が机上の空論に陥らないよう区会の問題点再点検に終始しましたが、下半期は8月実施の区会活性化アンケート調査結果に基づき目下具体案づくり鋭意取り組み中です。

(次頁へ続く)

(前頁よりつづく)

こうべ環境未来館

企画運営業務は本年が受託3年目。昨年6月新型インフルエンザの影響で来館者が一時的に減少したものの、運営は概ね順調に推移しております。今年もエコスクールを軸に市や関係環境団体との協力体制を固め、各種環境学習事業の推進に積極的に取り組んでおります。来年度は平成23年度委託業務契約更新の適否が問われる重要な年だけに事業運営の更なる充実が特に求められます。

電話相談委託事業

神戸市こども家庭センターでの「児童虐待夜間休日相談ダイヤル」(平成17年7月受注)、神戸市教育委員会の「いじめホットライン」(平成19年3月受注)の両電話相談業務はともに大きなトラブルもなく、順調に業務遂行中です。今後も委託先の信頼を裏切ることがないよう業務体制の拡充を図って参ります。

須磨一ノ谷プラザの管理運営

本年度は管理運営3年目。運営体制を再整備し、関係者の尽力で少しずつ課題を克服して来ました結果、稼働率はやっと4月～11月平均で29.6%まで引き上げることが出来ました。運営はほぼ順調に推移しており、年度末には採算経営をほぼ維持出来る見通しです。新年度も事業を継続する方針ですが、利用者拡大に向け会員の皆様の更なるご協力をお願いします。

学習支援事業

本年度の学習支援要請校は現在55校(前年度実績64校)、支援校41校(同40校)、延べ支援者数95名(同270名)となっておりますが、年間支援実績はほぼ前年並みと推定されます。増加する特別支援への対応が課題ですが、新年度も引き続き支援体制を強化し市内各校の期待に応えて参ります。

パソコン講習会

平成21年度は運営方法の改善に努めた結果、在校生向け講座、一般市民向け講座とも受講生が増加に転じました。来年度は引き続き、K S C事務局とも運営体制、機器・設備面の改善について協議を重ね、パソコン講座の充実に努めます。

財)長寿社会開発センター助成事業

平成21年度は「伝統文化、環境保全、健康増進」をテーマに年間20件のイベントを開催する予定で、親子連れや熟年者層を対象に楽しみながら学んで

もらうことになっています。残念ながら、長寿社会開発センターの助成は本年度で打ち切りとなりますが、来年度も企画面で創意工夫を加え、この種の事業を継続していく予定です。

フルーツフラワーパークとの共同事業

本年度は七夕祭り、夏休み工作づくり、昔遊びなど年間5件のイベントをフルーツフラワーパークと協同実施致しました。今後も市民の皆様と心を通わすイベントとして定着させて参ります。

第7回定期総会について

新年度の定期総会は5月20日(木)を予定しております。会員の皆様には万障繰り合わせの上ご出席くださいますようお願い申し上げます。

新年のご挨拶の終わりにあたり、会員の皆様はじめご家族の方々が健やかで充実した一年をお過ごしになられますようお祈り致します。

K S C 男声合唱団よりのお知らせ

グループわ 文化部 K S C 男声合唱団

代表 福祉9期 小林 精一

第3回 K S C 男声合唱団 演奏会

2010年5月22日(土)

神戸文化ホール 大ホール

開場 13:30 開演 14:00

入場無料

平成11年、わずか7名でスタートしたK S C男声合唱団も本年10年目を迎え、60名を超えるまで大きくなりました。

多くの方々に支えられ、励まされながらボランティア演奏を重ねてまいりました。

この度、親しくご指導いただきました斉田好男先生に客演指揮をお願いし、10周年記念第3回演奏会を開催いたします。

ご来場を、心よりお待ち申し上げます。

入場には 入場整理券が必要です。入場整理券をご希望の方は、お知り合いの団員か、下記までご連絡下さい。

北山 忠 (音文15期)

Tel・Fax 078-851-3401

E-mail Kitayamann69@yahoo.co.jp

小畑 浩昭 (国際16期)

Tel・Fax 078-582-0080

E-mail kohiry@nifty.com

平成21年度第3回 「学習支援者の集い」開催さる
学習支援委員会

開催日：平成21年11月27日（金）

出席者：委員、支援者、支援候補者 50人

来賓： KSCマネジャー 中山 喜統 様
KSC学習支援リーダー 松本 容子 様

1. 全体会議

(1) 「戦争体験総合学習」の現況と授業実演

担当委員より「本年度、戦争体験学習について星和台小学校、ひばりが丘小学校、道場小学校、渦が森小学校、宮本小学校、竹の台小学校、なぎさ小学校、若草小学校の8校から支援要請を受け、いずれも昔遊び研究会（会長入江敏行氏）の全面のご協力に対応している。戦争体験学習人気が年々高まってきたことを反映して、19年度 2校、20年度 5校、21年度 8校と支援要請校が急増している。この調子では現在携わっている語り部の陣容では対応出来なくなって来た。」と、戦争体験総合学習の現状報告がありました。併せて「戦争を何らかの形で体験された方が私たちと一緒に活動してくれたらありがたい。」と、語り部としての参加要請がありました。また、戦争体験の話を聞いた先生から「私達はまったく戦争を知らない世代です。私も、子ども達と共に戦争の悲惨さをしっかりと受止め、平和のありがたさをこれから先、子ども達に語り伝えたい。」という声があったことが紹介されました。（後掲、大好評！道場小「戦争と平和」授業の項参照。）

続いて、西阪順三氏が講師となって「神戸大空襲」の映像データを交えながら、生々しい悲惨な空襲の実体験を語っていただき、「戦争と平和」の授業を約40分間実演いただきました。

身をもって体験された西阪さんが小学校で語り部として行っているお話を、直に聞くことができ、大変感銘を受けました。涙を流しながら聞き入る、女性の学習支援委員の方もおられました。

(2) 平成21年度学習支援活動の現状

次に、中沢学習支援委員長から次のとおり支援の現状報告がありました。

現在、学習支援要請 54校に対して、支援校38校（昨年36校）となっている。支援校38校のうち20校に対して特別支援を行っており、依然として

特別支援の要請が高いレベルにあります。

今年も、英語学習支援の要請が5校からありました。また、戦争体験談が6年生の社会科の勉強に取り入れられていますが、多くの学校がこの授業で勉強してから修学旅行でヒロシマに行き戦争について学んでいます。今年も、戦争体験談の要請が昨年に対して倍増していますが、日本伝統文化の要請はゼロとなりました。各学校において、学習指導内容の変更が続いています。

以上の現況報告のあと、「シルバーカレッジ事務局の松本リーダーには、日頃力強くバックアップしてもらっているの、この場を借りて感謝申し上げます。在校生に理解してもらって、参加者が増えつつあり、うれしく思っています。」と、感謝の言葉がありました。

(3) 特別支援活動に係る課題解決への取組みについて

渡辺委員からこの問題について次のとおり中間報告がありました。

支援要請が増大する特別支援については、学校側の対応問題など課題も多いところから、神戸市教委委員会にお願いし、指導部特別支援課と情報交換の場(会合)をもつことが出来ました。先般、これまで集い等で聞いてきました現場の問題（私たち支援員に対する学校長・教頭・先生方の対応差、学校側の学習支援活動に対する理解度合、支援活動への謝金問題など）を、特別支援課の方に率直に訴え、実情を聞いていただきました。特別支援課の方の回答は「そんな学校ばかりでないと思うが、今一度、校長にはその都度話をしたい。」とのことでした。これからも、再三ミーティングをもつことになっています。皆さんから意見や問題を聞かせてもらって、より良い方向にもっていきたいと思います。力不足で無い知恵を絞ることになるかもしれませんが、意見をどしどし寄せてください。学校側の対応が悪かろうが、拙かろうが、私たちは子どもたちのためにやっていることを忘れてはいけないと思います。

2. ディスカッション「皆で考えよう悩みと課題」

今回のディスカッションは、従来のやり方を改め、事前アンケートで収集した「学習支援活動の具体的な悩みや課題」に基づいて全員で議論いただきました。終始、熱のこもった経験交流となりましたが、主な意見や体験談は以下のとおりです。（次頁へ続く）

(前頁より続く)

A氏；1、2年生の算数をみているが、一人二人、先生の話の聞かなかつたり、ちゃんと席に座らない、寝転んだり、書類をさわったり、ノートを出しなさいと言ってもブロックで数を数えたり、持ってきても出さないなど、うまく先生の言うことを聞けない。先生も手を焼いている。先生から指示が出ないのでどうしたらよいか困っている。支援者としてどうしたらよいか？皆さんの経験をお聞きしたい。

B氏；子供はある時 急に変わる子もいる。少し長い目で見ればよいと思う。先生は一年毎に代るが、おじいちゃんの方が長くいてくれるので良いと言ってくれることもある。普通学級を見ないで、特別支援学級だけ見ていると周りが見えない。いろいろあるが嬉しいこともたくさんありますよ。松本支援リーダー；文部科学省統計では小中学生で約6%の子供が軽度発達障害と言われています。また、どの子も自分の良いところを伸ばしたい意欲を持っています。その子の得意なことがどう言う状況だったら頑張れるのかとか、 どう言うステップだったらやっていけるのか、細かい視点でその子を見て、それに合わせてその子の発達を促してゆく、そういったことが大事です。(「行動分析の考え方」について大変有益な説明がありました。)

C氏；特別支援では予め子どもの特性を教えてほしい。先生のやり方に沿って対処したいので事前に知りたい。

D氏；ボランティアを受け入れる場合すべきことが示されるべきだ。教育委員会にはボランティアの意見も聞いてほしいと思う。各校バラバラでは、本当の障害児教育につながらない。また、ボランティアと先生が話ができるか、どうパイプをつなげるか、コミュニケーションをふやせるかが重要だ。

E氏；学校側とのコミュニケーションが重要なことはわかるが、時間を見て接することも一つの方法、いろいろ試すとよい。思い切って校長に合う。ダメなら教頭など。子どもに接する方法も俺流でよい。家庭におじいちゃん、おばあちゃんがいる存在を知ってもらう。子どもの様子、算数の場合と国語の場合とでがらりと違う。

F氏；5年間学習支援に関与している、竹の台で地域の“ふれあい”もしている。子供は愛情を持っ

て接すれば答えてくれる。竹の台は地域を挙げて学校と接触がある。親しみを感じている。我々が、どうコーディネートしていくかが重要。今、わ本部として小学校の環境体験学習を取り上げようとしている。学校とのかかわりをもっと増やし、子どもの見守り隊や各種学校支援活動を通じて子どもと付き合ったり、子どもと接することが大切。これから子どもの健全育成に役立つ事業運営に力を入れてゆきたいと考えている。

G氏；昨日、地域の校長先生と昔遊びの話をしたら、だんだん校長さんとコミュニケーションできるようになった。これからは子どもと一緒に遊ぶこともやらないといけない。子どもたちが育ってゆく上で先生も、親も大切だが地域のシニアも何かせねばならない。ゴム飛びとかをやると効果がある。PTAにも昔遊びのことを知らせないといけない。幼稚園に計画表を作り宣伝している。学校の先生にもPRしている。そうしたことで地域のつなぎ役をするのが我々の務めである。

H氏；昔遊びにはいいことがたくさんある。ここにいる皆さんはきっと子どもの時よく遊んだと思う。大いに昔遊びを推進してもらいたい。

大好評！道場小「戦争と平和」授業

(音文 9期)中沢 保夫

昨年11月11日、北区の道場小学校で6年生37名を対象に「戦争と平和 神戸大空襲」の戦争体験授業が開催されました。昔遊び研究会(会長 福祉8期 入江敏行氏)の協力で実施されたこの授業は、子ども達に非常な感銘を与え、後日担任の先生から礼状とともに子どもたちの感想文が寄せられました。その主なものを抜粋して紹介します。

6年女子Aさん

私は戦争のことはイメージだけで知っていたけど、今日お話を聞いて本当の恐ろしさを知りました。戦争が起こる理由が分かって良かったです。理由もなく戦争をするのはおかしいので分かって良かったです。でもやっぱり話し合いが大切と思いました。戦争中の食事は私だったら食べられないと思います。好き嫌いは多いけど、昔と比べるとものすごく贅沢なので極力残さずに、わがままも減らしたいです。お父さんやお母さんがいるだけで幸せなんだなって改めて思いました。戦争なんかしてたのしいのかな。よく考えてみると、殺

(次頁へ続く)

(前頁より続く)

し合いをしているわけだから、自分で自分の家族を殺しているのと同じだと思います。人の家族を殺しているんだったら、自分の家族を殺しているのと同じような気がします。(中略)地球から争いごとがなくなる日は来ないかな。争いがあっても、話し合いで解決していけたらいいなあ。今でも地球のどこかで戦争をやっている国があるから、戦争をしても大切な物を失うだけだと知って欲しいです。

6年女子Bさん

私は防空頭巾をかぶっていたら、火が来ても少しは助かると思っていました。だけど、お話を聞いて防空頭巾は役に立たないと聞いて本当に怖くなりました。今まで感じていた戦争の恐ろしさよりもっとこわくなってしまいました。私がもしその時代の人だったら、それを考えるとお母さんやお父さん、兄弟と別れなくてはならない悲しさに耐えられないと思います。家族を亡くし、とつてもつらい気持ちだったということが、戦争のお話を聞いて少しずつ分かってきました。今でも戦争が続いているイラクやアフガニスタンなど、世界中では私たちが寝ている時や勉強している時など、私たちが平和で暮らしているときでも、戦争が起こっている国がある。私たちが平和に暮らしている普通のこと、本当はとっても幸せで、感謝しなければならぬことなんだなあと改めて感じました。

6年男子C君

ぼくは今まで戦争ってと聞かれると、怖いぐらいしか言えなかったけど、戦争はなぜ起こるのが分かりました。(中略)ぼくと同じ位なのに、親と離れて暮らすなんて考えられない。今で当たり前のことだが、昔はできていなかったということを初めて知りました。戦争をしても何も生むことがないと聞いて、その通りやなと思いました。命を大切にするとか、お母さんを大切にするとかいうことはとても伝わりました。お母さんの遺体を持つとか、ぼくにもその気持は分かったけど、ぼくが思っている以上のことだと思います。貴重な体験をありがとうございました。とても勉強になりました。ぼくは聞くだけだったけど、実際はもっともつらかったんだろうなと思います。

6年担任の西沢先生

子ども達だけでなく、我々大人にとっても「戦

争体験」はありません。しかし、そのときの人々の思いやりなど、その時代に生きてきた人々から聞くことは非常に大事なことです。今回は「神戸大空襲」を中心に、体験談を聞くことができました。なかでも、ご自分の母親をなくされた方のお話は子ども達だけではなく、我々大人にとっても非常に心痛むものがありました。(中略)私自身、戦争を体験しておりませんが、様々な方からお聞きすることがあり、少しでも教師という立場から子どもたちに伝えていきたいと考えております。(中略)今回のお話でもありましたが、広島・長崎にどうしても注目して学習を進めがちになりますが、やはり自分たちの足下をしっかりと見ておくことが必要であると思います。今回のお話を子ども達が子ども達なりに自分の心の中で考え、次に自分たちがそれをどう生かしていくのが大事であると話しています。まず、身の回りの人に自分が感じた思いを伝え広めていくことで、延いては平和への取り組みの第一歩になると確信しております。

第1回「学習支援者の集い」開催ご案内
 日時；平成22年4月20日(火) 13:30～16:30
 場所；神戸市シルバーカレッジ 2階学習室
 議題 ①平成22年度の活動について
 ②グループディスカッション
 ③その他情報交換・連絡
 登録者に限らず在校生、一般の方の参加を歓迎します。

灘区会

御挨拶 灘区会長 食文10期 木下完治
 今回 灘部会を 福田会長から引き継ぎ 任されました木下完治です。食文10期生で 現在 文化部会 食育Gに所属しております。
 今日までのボランティア活動としましては、K S Cにて青陽東養護学校・男性料理教室補佐員として活躍しております。それ以外は 地元の小学生投稿見守隊・地元市営公園の清掃作業や花壇管理の経験をしております。
 今後は 灘部会のブランクを修復して、“わ”本部の御指導を頂き出来ることから 一つずつ前進して行きたいと思っております。
 皆様 どうぞよろしくお願い申し上げます。

環境部会

環境部会長 生環11期 菅田 忠志

たくさん収穫できたブルーベリー 明生園の方たちとジャム作り

八園会ブルーベリークラブの皆さんが、しあわせの村内で育ててきたブルーベリー、大変だった暑い夏の水遣り作業の甲斐あって、今年はたくさん収穫ができた。その実を銀の匙グループのみなさんにお手伝いいただき、10月22日、明生園の方たちを招いてカレッジの調理実習室でブルーベリージャム作りを行った。

甘ずっぱい香りの漂う中、たちまちおいしいジャムに変身してゆく。みんなで試食会を楽しみお土産にも。小瓶約50個分はカレッジ事務局・しあわせの村事務局にも協賛販売、し



カレッジ生環1年生に 環境教育体験授業でサポート

2月7日、KSC生環1年生のみなさんに、環境部会が日頃行っている子どもたちを対象とした「環境教育イベント」の内容を授業で体験していただいた。午前は、村内の里山学習、ビオトープ見学、探鳥会、ケナフの紙すきに分かれて体験。午後はエコ双六、木の実工作、リース作り、木工名札作りにそれぞれ挑戦していただき、児童・学童たちへの「環境教育」内容の一部を紹介した。卒業後は是非我々と一緒に子どもたちへの「環境教育」の輪をひろげていきたい。

健康ウォーキングを2コースで

一般市民を対象とした健康ウォーキングのイベントを11月4日(水)と11月29日(日)に実施した。11月4日は長寿社会開発センターの助成金対象事業として開催したもので、布引から再度公園を経て新神戸へのコース、11月29日は須磨区役所助成金対象事業の一環で、須磨一の谷歴史の道をウォーキングで案内した。特に年齢に制約はないが、毎回シルバー世代の参加者が主体で、「高齢者健康増進活動」となっている。



[前のページへ](#)



修法ヶ原池



布引の滝



須磨海岸を望む

[次のページへ](#)

「しあわせの村・市民探鳥会に68名参加
野鳥は温暖化防止に貢献」！
「野鳥と自然観察会」代表 生環11 茅中 英一

平成21年11月8日(日)午前、恒例のしあわせの村主催の市民探鳥会が開かれ、好天にも恵まれ市民68名が参加。芝生広場を起点に、2グループに分けて、鎮守の森 白川出口 テントキャンプ場 堂坊池を經由、芝生広場に戻る約4KM、2時間のコースを全員無事ウオッチ。

観察出来た野鳥の内冬鳥は時期が少し早かったせいかシベリアなどからの美しい渡り鳥ジョウビタキだけでしたが、オオタカやクサシギなどに出会え合計20種類でした。鎮守の森では歩道沿いに設置していた巣箱No.9とNo.29を開けたところ、幸い12箱とも春にシジュウカラが巣立った跡の巣材が残されていて、参加者はその芸術的とも言える見事な作りに感動していました。巣材は巣箱に合わせ縦15cm、横12cm、高さ7cm で近くにあるスギゴケを基材に卵やヒナが触れる部分は柔らかい羽毛、犬猫などの毛や綿毛等をお椀状に敷き詰めていました。そして当会会員が巣箱を樹に設置する作業にも参加者に立ち会ってもらいました。

平成18年春からの21年春までの4年間しあわせの村に設置した約50個の巣箱から毎年160 -

180羽のヤマガラやシジュウカラのヒナが巣立ちましたが、外敵や餌不足などで翌春までの生存率は10%未満と言われ自然界の厳しさが伺われます。

野鳥たちは地球温暖化防止に貢献しています。CO2を吸収する樹の葉を食べる昆虫を餌として樹を守り、そして樹の実を食べてその種をフンとともに各地に散布して森を広げCO2吸収を増やします。このように私たちに助けてくれている野鳥たちを巣箱や植樹で守ろうではありませんか。



野鳥観察風景(上)と雛の巣立ったシジュウカラの巣箱(下)

いかり共同作業所で色紙指導

生環9期 長谷川 博

ケナフの会で紙すき指導しているいかり共同作業所で色紙の販売を始めました。紙すき指導の中でポストカードに「絵を描いたら」との発想が1段進んだ色紙となった次第。

当会員で絵心のある松井さんにいかり共同作業所の作業員を指導していただき、ガラス版画を作り色紙、ポストカードなどを作成しました。当然指導には忍耐と困難を伴いましたが、販売したところ注文が多く何回も追加制作を致しました。グループの会員の方も、購入のほどお願いいたします。

〔トンパ文字とは、中国のチベット東部や雲南省麗江市に住む少数民族の一つナシ族に伝わる、象形文字の一種である。ナシ語の表記に用い、異体字を除くと約1400の単字からなり、語彙は豊富である。ーウィキペディアよりー〕



絵柄は虎、夢の2種類です☆来年の干支や初夢に、新年の願いをこめて飾ってみませんか？絵柄は指定できません。

福祉部会

福祉部会「オアシスグループ」が
神戸市身体障害者福祉団体連合会より
「功労賞」の表彰を受けます。

福祉部会長 横井幸雄

日頃の障害者に対するボランティア活動が認められ1月24日に標記の大会で「功労賞」を贈呈されました。このグループは福祉文化コース12期生の女性たち5人のグループです。グループ学習で取組んだテーマを卒業後も活動して実践するためにグループわに入会されました。グループわとしてもこのような形で卒業後も活動されるのが望むところです。

「白い杖」とか、「車いす」とかは広く社会に認知されていますが、聴覚障害者の「耳マーク」はそれほど社会に認知されていません。また、聴覚障害者も自主的に「耳マーク」を装着して社会に協力を求めていく形になっていません。「耳マーク」は聴覚障害者のシンボルとして広く社会の方々に知って頂いて協力を得ようという活動です。

グループ学習のテーマ

音を見たことがありますか？
「難聴者、中途失聴者への理解を深めて」という副題で「耳マーク」の普及に取り組む活動です。



グループの活動は目覚しいものがあります。グループで行動することは機会損失になるという考えで、個人で広く活動し機会を増やす取り組みを実践しています。公的機関への働きかけ、関係団体への働きかけ等々、皆さんも「耳マーク」をよく見かけるようになったと感じられていませんか？それは「オアシスグループ」の成果の現れです。この結果が2年余りの活動で「功労賞」を頂くことになったものと思います。

なお、功労賞は団体でなく、個人対象ということで「五味 賀子」さんが代表になって受賞します。部会長としては会員の輪を広げて活動が継続していく事を願っています。これからの活動を大いに期待すると共にご支援を頂きたくお願いします。

兵庫区会

兵庫区会十周年の記念誌を作成

兵庫区会長 大掛 敏夫

兵庫区会では、「震災からのふれあい十周年のあゆみ」を作成し11月の定例会で会員各位に配布致しました。作成のきっかけは、創立から13年ですが、社会福祉協議会に加入してから10年となり、昨年暮れに市長から感謝状を受けたことと、平成21年度からわで区会活性化に取り組み始め、地域交流会のリーダーと話し合えるようになったことです。

内容は「まえがき」「目次」「会則」「役員名簿推移」「会計推移」「定例会・歴史」「福祉関係」「親睦・レクリエーション」「思い出のアルバム」で裏表紙には区のPRパネルの写真を配しました。

兵庫区会では、創立時、1期から3期の現役学生でスタートした関係で、わに加入

していない方は全会員の約3割、わに加入している方の中で区会に参加されていない方はわの会員の約4割の方がおられます。平成20年度会員だった9期～11期生の方は21年度には参加者がありませんでした。区会では高齢化が進みつつあります。

現役の学生さんとの交流を進めるため、先日2グループのリーダーと会い記念誌をグループ用としてお渡し致し、兵庫区会の現状を説明し、現役グループの実情をお聞きし1月に実施予定の新年会に無料招待致しました。今後

もう一人のリーダーとも会い、少しでも区会に参加していただけるようにしていきたいと思っ



「十周年のあゆみ・思い出のアルバム」から「朝鮮通信使行列（平成13年7月）」

北 区 会

北区会親睦会グランドゴルフ会と昼食会

北区会 国際8期 佐伯 義昭

H21年10月29日(木)しあわせの村球技場で秋晴れの下42名が参加してグランドゴルフ大会をとり行いました。9:30開始でわ本部の加藤理事長の挨拶で日頃のボランティア活動の謝辞と本日の競技を楽しんでくださいとの言葉がありました。9:50プレイ開始で10チームが10ホールで2ラウンドプレイしました。

初めての方もおられ「思うようにいかないわ」と嘆かれる女性、「真直ぐ行ったのにホールを突き抜けて行ってしまった。強く打ちすぎた。」と嘆く男性。また別のホールではホールインワンがあったのか拍手喝さいがあり、Vサインをする人など悲喜こもごもの交流があり2時間が「アッ!」と言う間に過ぎてしまいました。昼食会は「アミー



ゴ」で表彰式などを行いました。結果は西川寿夫さんが50打で優勝、2位、3位、4位は女性、また飛賞に多くの女性が入られるなど女性陣の活躍が目立ち思わぬ賞品に喜んでいました。交流会も進み土井会長からは上半期北区ボランティア活動状況概要報告があり、「神港園入浴後の介護活動」「花山梅林会」「へ音記号」「K S C 広陵同窓会 I N - N E T クラブ」「にこにこハウス」「北五葉小、通学見守り」「唐櫃ゴミ拾い」等々。懇親会も和気藹藹の内に終了しました。最後になりましたが実行委員の方々、ブロック連絡委員の方々、当日設営など手伝ってくださった方々本当にありがとうございました。

一歩前へ

北区 生環7期 榊原 惇一

現在、私達が住む社会では、個人主義、利己主義などの価値観に重きを置く人々が多いように思われる。世はまさに地球環境問題への対応が叫ばれ、地球の危機的状況を加速させないために、清掃という些細な活動にも意義があると思っている。私達の住む北区は、加古川や武庫川の上流域で、下流域に対して川を汚さないようにする責務がある。川を汚せば海が汚れ、海の酸素の欠乏を招き、魚がいない海となるだろう。これは自然の摂理、循環の鎖を断ち切ることになる。

路上に捨てられたゴミは側溝から川へと流れる。従って川に流れる前にゴミを拾い上げることが大切である。ゴミは風雨によって散乱し移動する。

路上には、タバコの吸殻、買い食いの容器、買い物のポリ袋などが、なんと多いことか。これらは、石油化学製品で腐蝕しにくく、自

然を汚す元凶である。日本人には潜在的に“水に流すのを由”とする意識があるだろうが、ゴミを流しては駄目だ。

何時もゴミ拾いをして何の役に立つのか。無駄なことではないか。自分が捨てていないゴミを何故私が拾わなければならないのかと言う人もいる。ゴミ拾いをしていると、他人に自宅前の路上のゴミを拾われているのが嫌だという人もいる。一日の内、僅か5 10分の時間があれば、向こう三軒両隣の路上の清掃はできるし、時間と心に余裕があれば、点から線へ、線から面へと活動の場を広げて行けば、自らの街はキレイになり、人の心も通う街となり、有り難うの言葉も交わされるようになる。

私達シルバー世代が、先頭を切って、環境に優しい、美しい潤いのある街作りに参加しましょう。行政に頼ることも必要ですが、住民の自主的な活動が街づくりの基礎であると思います。

さあ、思い切って、一歩前に踏み出そう!!

中央区

真愛ホーム奉仕活動で第1回賀川賞！

中央区会長（生環9期）元田 弘忠

昨年暮れ（12月22日）、賀川豊彦献身 100年記念事業 神戸プロジェクト委員会から、中央区会の真愛ホーム訪問ボランティア活動が評価され、第1回賀川賞を受賞しました。中央区会は特別養護老人ホーム、真愛ホームで1998年4月から11年間絶えることなくボランティア訪問を続けてきました。年間延べ120名余の人々が利用者の入浴後の整容をはじめ、夏祭りや花見の付き添いなど幅広い活動を地道に続けてきた結果です。私たちには励みになる、嬉しいニュースです。



「賀川賞表彰状」と「豊彦の大好きな幼子が世界に光をかかげている彫像」

季節の草花

フキノトウ（フキ）

生環8期 久保 知彦

フキノトウは、多年草であるフキの花茎のことで、秋田県の県花は「フキノトウ」です。長い冬が終わって雪解けの野原に顔をだすと、春が来たのだという実感が沸くことでしょう。秋田県や宮城県では「ばっけ」といっています。

フキはキク科の植物で雌雄異株、雄花が白黄色、雌花が白色です。雌花は受粉後、花茎をのぼしてタンポポのような綿毛をつけた種子を飛ばします。

蕾の段階で採取されたフキノトウは、天ぷらや煮物、味噌汁、ふきのとう味噌に調理されます。少し苦味のある風味が何ともいえません。

フキは、沢や斜面、川の土手などに見られ、その葉や茎は食用とされていますが、最近では栽培されているものも多くなりました。

高さ2mにも達する秋田落もあり、フキの葉の下に住むコロボックル伝説もあります。

形がよく似たものにツワブキがあります。葉が常緑で、厚みと光沢があり、黄色い花をつけます。オタカラコウなどもよく似た仲間です。

「山川の香りはじめの落の臺」 野沢節子

「春日野に野守を見ずや落の臺」 角川春樹



東灘区

ひがしなだふれあいフェスタに出店

東灘区会長 生環9期 長谷川 博

「ひがしなだふれあいフェスタ」

11月3日東灘住吉公園で開催されました「ひがしなだふれあいフェスタ」に初めて出店しました。

神戸市東灘福祉協議会主催で毎年開催されています。初出店のテーマは「旬を食べよう・地産地消」で焼き芋の実演販売とグループわのパネル展示です。焼き芋機は「グループわ」より借用、芋は伊川農園、大沢の農家より約250本購入、スタッフは会員9人と、本部・増金さんとお孫さんの応援で対応しました。多くの人々が来店、芋が不足し、会場で販売品を購入しても1時間早く完売、主催者よりお礼がありました。会員の方も沢山来場、購入され活気のあるイベント参加



となりました。次回も参加しようと意見一致です。

研修バス旅行

11月17日大阪ガスの協力を得て、大阪ガス姫路の展示館、工場、ソーメンの里、龍野童謡の道を見学、散策しました。当日は朝から1日中雨。その為集合写真も撮れず残念でした。体調を崩されている方が多く参加者は26人と予定より少なく赤字となりましたが、参加者は充分ガスの知識を得、温暖化対策を学び、ソーメンの知識を得、童謡を唄い、仲間と楽しい日を過ごしました。

知ってお得！参加して楽しい！

グループわ イベント情報（2月～4月）

開催月日	タイトル	開催場所	担当部会
2月3日（水）	昔の暮らし	竹の台小学校	文化部会
2月2日（火）、 3月3日（水）、19日（金）、 26日（金）	男のヘルシー料理教室 Aコース	兵庫健康ライフプラザ	文化部会
2月9日（火）、 3月2日（火）、23日（火）、 30日（火）	男のヘルシー料理教室 Bコース	兵庫健康ライフプラザ	文化部会
2月24日（水）	マイ箸を作ってごはんを食べよう	神戸シルバーカレッジ	環境部会
2月28日（日）	親子であつまれ炭焼き体験 とケナフ紙すき塾	神戸シルバーカレッジ	環境部会
3月7日（日）	「一の谷合戦」講話と歴史 散歩	須磨一ノ谷プラザ	わ本部
3月14日（日）	親子であつまれごちそう うどんづくり塾	神戸シルバーカレッジ	わ本部
3月20日（土）	地球温暖化と水力発電体験 学習	こうべ環境未来館	こうべ環境未来館
3月23日（火）、30日（火） 4月6日（火）	シルバー男性調理実習	神戸シルバーカレッジ	わ本部
3月25日（木）	ペタンク大会	しあわせの村球技場	いきがい部会
3月23日（火）	シルバー男性調理実習	神戸シルバーカレッジ	わ本部

アンケートの集計結果の報告

区会活性化推進委員会

昨年10月に「区会活動活性化委員会」が実施した「グループわ会員アンケート」の集計結果について報告いたします。

アンケート回収率：48.7%！

回答総数は572件（会員総数；1180名）で、回収率は48.7%と予想より若干低い回収率でしたが、約半数の会員の方から、貴重な意見を集約することができました。回収率の高かったのは（1）灘区（52.1%）、（2）西区（51.9%）、（3）北区（50.4%）でした。

設問は4項目に亘っており、（1）区会活動の認知度、（2）区会活動への参加実績、（3）広義のボランティア活動への参加実績、（4）今後のボランティア活動への参加意欲を尋ねるものでした。

区会活動を知らない人が約1割！

まず、第1項目の区会活動の認知度については、知っている：57%、一部知ってる；36%、知らない；7%という結果で、1割弱の人が知らないと回答している。とくに、灘区（17%）、中央区（11%）、兵庫区（12%）の会員は、知らない人が多く、区会として区会活動の情報を周知する努力が望まれる。

区会活動不参加者が全体で3割強！

次に、区会活動に参加したことの無い人が3割強に達している。とくに、須磨区および北区では、不参加の理由として「多忙のため」と挙げている

人が、他の区に比べると圧倒的に多く、須磨区では（42%）、北区では（44%）という結果であった。これらの区会員の活動の主体が、部活動になっているためだと思われるが、地域活動の重要性をもう一度認識していただくチャンスを区会として作って行くべきであろう。また、不参加の理由として、「活動への誘いが無い」との回答が、灘区（13%）と須磨区（13%）で他の区に比べて突出しており、情報の連絡方法について、再考を要すると思われる。

6割強の人がわ以外の活動経験者！

第3項目として、“わ”以外のボランティア経験の設問では、約6割強の人が経験があり、しかもその内の約半数が地域に密着したボランティア活動を経験している。

ボランティア参加意識極めて大！

設問4で、今後の地域密着ボランティアへの参加の意志を尋ねると、兵庫区（56%）を除くと、7割～9割の人が参加の意思を示しており、ボランティア活動をさらに活発化させるための下地は十分にあると思われる。その活動内容は、子どもの健全育成（34%）、施設訪問（32%）、清掃奉仕（22%）が上位を占めている。

今回のアンケート結果は、各区会毎に内容分析をお願いしているので、貴重な会員の声を十分に分析して、区会活動の活性化に役立てていきたい。

最後に、アンケートにご協力いただいた会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

編集後記

平成22年の「寅」年が明けた。ものの本によると「寅年は十二支の三番目にあたるので、芽が勢いよく伸びはじめる、少しずつ活気が出てきて、万事順調に進みはじめる年だとされています。（子年は十二支の最初ということで、活発に種をまくべき年、次の丑年は蒔いた種が芽を出し成長するものを、忍耐強く見守る年。）」ということだそうだ。

昨年、政権交代があり、果たして寅年のように万事順調に進む年になるのだろうか。この厳しい経済状況のなかで、藁にでもすがる思いで、期待せざるをえないのだろうか。とにかく、神頼みで

期待しましょう。

昨年来、区会活性化委員会の活動の一貫として、区会活動の種々の問題点を洗い出すために、会員全員にアンケートを取り、その結果がまとまりつつある。その一部を本号で紹介しているが、各区会さらに、詳細な分析が行なわれているので、その結果を是非活性化に活用して、地域密着型のボランティア活動に反映させてほしい。



（編集担当 今田 紘）